

ストロンチウム

1カ月前、市民が情報

市議 対応後手の市を批判

横浜市が十四日、福島第一原発事故が原因の放射性ストロンチウムを確認したことをめぐり、港北区の男性(三〇)が「ストロンチウムを検出した」と情報提供したのは一カ月前の先月十五日だったことが、分かった。同日の市議会決算特別委員会で、加納重雄市議(公明)が「男性が情報提供していたのに、一蹴された」と、市の対応が後手になったことを批判した。

市議 市などにすると、男性は先月十四日に情報提供した際、自宅マン

シヨン屋上の堆積物をウムを検出したことと、放射性ストロンチウムを検出したことも市に伝えていた。しかし、民間検査機関に持ち込んでも調べ、一錠当たり約六万粒の放射性セシウムを検出したこと

市は「検出量が一定程度あり、福島第一原発の事故が原因」との見解を示し、同原発から約二百五十メートル離れた地点にストロンチウムが飛散したことが初めて正式に確認された。市は、国が同原発から半径百メートル以内で実施された堆積物があった場所は、同区大倉山の道路側溝と、同区新横

し、市が検査を始めたのは今月四日だった。また、市は十四日に発表したストロンチウムの検出結果で、男性が最初に情報提供したマンシヨン屋上の数値を「住民全員の総意を確認できなかった」との理由で公表しなかった。男性によると、同二二六粒という。(荒井六貴)

社会面

原発事故でストロンチウム

横浜さらに2カ所

横浜市港北区のマンシヨン屋上にあつた泥などの堆積物から微量の放射性ストロンチウムが検出された問題で、横浜市は十四日、検査の結果、同区のほかの二カ所にあつた堆積物からも微量のストロンチウムを検出したと発表した。

市は「検出量が一定程度あり、福島第一原発の事故が原因」との見解を示し、同原発から約二百五十メートル離れた地点にストロンチウムが飛散したことが初めて正式に確認された。市は、国が同原発から半径百メートル以内で実施された堆積物があった場所は、同区大倉山の道路側溝と、同区新横

浜の横浜アリーナ近くの噴水底部。それぞれ一キロ当たり二二九粒と同五九粒を検出した。これらの堆積物は既に撤去されている。

一方、市はマンシヨン屋上の堆積物についても、あらためて検査したが、「マンシヨン住民全員の総意を確認できなかった」として公表しなかった。市に情報提供し検査のきっかけになった住民の男性(三〇)によると、同二二六粒だったという。

これまでの国の調査で、福島第一原発から半径八十キロ圏内の四十五カ所で検出された。最高濃度は半減期五十日のストロンチウム89が福島県浪江町で一平方キロ当たり二万二〇〇〇粒、半減期二十九年のストロンチウム90が双葉町で同五七〇〇粒だった。国は「五十年間同じ場所で見られる被ばく量は最大〇・二ミリシーベルトで、一般人の年間被ばく限度を下回る」と説明している。